

「エコ・エアポートビジョン2020 & 新エコ・エアポート基本計画」を策定しました

成田空港では、2005 年度から空港全体で環境負荷を削減することを目的として「エコ・エアポート基本計画」を策定し、活動してきましたが、この度その期間が満了しました。そこで今後 10 年間の方向性を示した「エコ・エアポートビジョン 2020」と 5 年間の計画である「新エコ・エアポート基本計画」を策定しましたのでお知らせします。

なお、この度の大震災による電力供給上の問題の発生により、今後、環境への負荷拡大が懸念される中、成田空港としては、この新基本計画を推進することによって、省電力や環境の保全に一層努めてまいります。

エコ・エアポートビジョン2020

- 1 地球温暖化防止に貢献する空港
～空港から発生するCO2を2020年までに2010年度比15%（発着回数1回あたり）削減します～
- 2 循環型社会に貢献する空港
～資源の有効利用に努めるとともに、廃棄物のリサイクルを徹底します～
- 3 豊かな自然と共生する空港
～空港周辺の環境への影響を最小限に抑え、生物多様性を育む環境の保全に努めます～

「エコ・エアポート」として世界をリードする空港
～空港関連事業者が一体となって取り組みます～

エコ・エアポート基本計画の概要

－2011 年度からの 5 カ年計画－

【取り組みの範囲】

航空機の離着陸を含む成田空港の運用及びそれに関連する事業活動

【目標設定】

1. 取り組み項目ごとの目標設定は、可能な限り数値化
2. 数値目標は、「発着回数 1 回あたり」や「空港利用者 1 人あたり」など空港特有の評価指標を使用

【基準年度及び目標設定年度】

1. 基準年度 2010 年度（B 滑走路北伸供用後の運用が通年化した年度）
2. 目標設定年度
 - ①中期 2013 年度
 - ②長期 2015 年度
3. 主体・対象の明確化
NAA の環境責任と空港関連事業者の環境への取り組み部分を分け、明確化

【項目別取り組み事例】

1. 地球環境への取り組み

【重点取り組み】 航空機、車両、空港施設からのCO₂排出量削減

低燃費型航空機の導入促進や、車両更新時の低公害車の導入呼び掛け、ターミナルビルにおけるBEMS(ビルエネルギー管理システム)を活用した省エネ対策、LED誘導路灯火の導入などを行います。

★目標設定

【CO₂排出量】

中期目標
(2013年度)

発着回数1回あたり
2010年度比 3%削減



長期目標
(2015年度)

発着回数1回あたり
2010年度比 5%削減



2. 周辺環境への取り組み

【重点取り組み】 低騒音型航空機の導入率UP！

音の静かな航空機の着陸料を優遇する制度を導入し、低騒音型航空機の乗り入れを促進しています。音の静かな航空機は同時に燃費効率が良いことからCO₂の排出を抑えることができます。

★目標設定

【低騒音型航空機の導入率】

基準年度
(2010年度)

76.2%



中期目標
(2013年度)

85.0%



長期目標
(2015年度)

90.0%

3. 資源循環への取り組み

【重点取り組み】 上水の使用量削減・中水利用率の向上

節水設備の導入や雨水・厨房排水を浄化した中水(再利用水)の利用量を増やしていくことで、旅客ターミナルビルを始め、事務所エリアやテナント(飲食業等)での上水の利用を削減します。

★目標設定

【中水利用率】

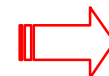
基準年度
(2010年度)

20.5%



中期目標
(2013年度)

25.0%



長期目標
(2015年度)

30.0%

4. 生物多様性への取り組み

【重点取り組み】 空港の拡張時等における自主的な環境影響調査の実施

事業拡大に伴い発生する工事においては、工事が空港周辺に与える影響を十分に調査し、拡張後の周辺環境の予測評価を公表します。また、それに応じて空港周辺の生物多様性に配慮した環境保全措置を実施します。

★目標設定

●生物多様性を育む自然環境の適切な保全と活用の実施

●空港周辺の自然環境への影響を最小限にする

5. 環境マネジメント

【重点取り組み】 空港全体を対象にした環境マネジメントと環境コミュニケーションの実施

エコ・エアポート推進協議会を通じて環境マネジメント機能を強化するとともに、出張環境教室やターミナルビル等での環境イベントの開催などにより環境コミュニケーションを活性化します。

★目標設定

●空港全体での環境保全活動の推進

●空港における環境保全取り組みに対する理解の向上

エコ・エアポートビジョン2020

「エコ・エアポート」として世界をリードする空港 ～空港関連事業者が一体となって取り組みます～

1. 地球温暖化防止に貢献する空港

空港から発生するCO₂を2020年までに2010年度比15%（発着回数1回あたり）削減します。

2. 循環型社会に貢献する空港

資源の有効利用に努めるとともに、廃棄物のリサイクルを徹底します。

3. 豊かな自然と共生する空港

空港周辺の環境への影響を最小限に抑え、生物多様性を育む環境の保全に努めます。

取組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度 (2010年度)	中期目標 (2013年度)	長期目標 (2015年度)	
地球環境への取り組み								
地球温暖化対策	航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量削減	空港全体	NAA及び空港関連事業者が、それぞれ航空機、車両、空港施設において取り組みを実施することで、空港全体のCO ₂ の削減を目指す。		4.94tCO ₂ /回	・航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比3%削減	・航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比5%削減	
			航空機	NAA	①低騒音型航空機の導入促進策(成田航空機騒音インデックスに基づく国際線着陸料制度)の継続 ②固定スポットにおける固定動力設備(GPU)の利用促進 ③誘導路整備による航空機地上走行時間の短縮 ④航空会社に対するAPU使用時間の短縮に向けた働きかけ	低騒音型航空機 ^{※1} 導入率76.2%(2009年度)	・低騒音型航空機の導入率85%	・低騒音型航空機の導入率90%
		各航空会社		①低燃費航空機の導入 ②APUの使用抑制と固定動力設備(GPU)の使用	GPU使用率 ^{※2} 95.3%(2009年度)	・ターミナルビル固定スポットにおける固定動力設備(GPU)使用率98%	・ターミナルビル固定スポットにおける固定動力設備(GPU)使用率100%	
		車両	NAA	①低公害車導入 ②貨物地区トラック待機所におけるトラック給電システムの利用促進 ③空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ④バイオディーゼル燃料の導入検討 ⑤エコドライブの推進 ⑥公共交通機関の利用促進策の検討・支援 ⑦低公害車での来場促進(電気自動車充電設備の導入等) ⑧カーシェアリングサービスの拡大 ⑨燃料電池自動車実証試験への協力(水素ステーションの設置等)	低公害車 ^{※3} 導入率35%(2009年度)	・業務用車両のうち低公害車の占める割合39%	・業務用車両のうち低公害車の占める割合41%	
			空港関連事業者(協議会)	①車両更新時の低公害車導入 ②空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ③エコドライブの推進 ④貨物地区トラック待機所における給電システムの積極的利用 ⑤バイオディーゼル燃料の試験導入への協力 ⑥天然ガススタンドの運営	公共交通機関(全入港者のうち電車・バス)利用率57.4%(2009年度アクセス調査)			
		空港施設	NAA	①誘導路灯火へのLED灯火設置拡大 ②ターミナルビル等空港内におけるLED照明の導入促進 ③省エネ法に基づくエネルギー管理、設備更新時の省エネ機器の導入 ④ターミナルビルにおけるBEMSを活用した省エネ対策 ⑤太陽光発電の設置拡大の検討 ⑥事務所における省エネ対策の実施(クールビズ・ウォームビズの実施等)	誘導路灯火へのLED導入率33.8%(2010年1月時点) 空港施設 ^{※4} におけるCO ₂ 排出量0.94tCO ₂ /回(2009年度)	・誘導路灯火へのLED導入率50%	・誘導路灯火へのLED導入促進	
	空港関連事業者(協議会)		①施設及び設備更新時の省エネ施設及び機器の導入 ②事務所棟における省エネ対策の実施(LED照明の導入、照明の点灯時間の短縮など) ③クールビズ・ウォームビズの実施 ④高エネルギー効率の施設運営(太陽光発電の採用など)	空港施設におけるエネルギー使用量21.3GJ/回(2009年度)	・空港施設におけるCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年比3%削減	・空港施設におけるCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)2010年度比5%削減		
	※1 低騒音型航空機＝成田航空機騒音インデックスにおいてA～Cの低騒音型航空機として分類される航空機で、低排出型、低燃費の航空機 ※2 GPU使用率＝供給機会に対する使用率 ※3 低公害車＝電気、ハイブリッド、天然ガス、燃料電池、メタノール、低燃費・低排出車(ガソリン、ディーゼル) ※4 空港施設＝NAAが管理する空港内施設および千葉港、四街道の給油関連施設							
	周辺環境への取組み							
	騒音対策	低騒音型航空機の導入率向上 騒防法に基づく区域指定の遵守	航空機	NAA	①低騒音型航空機の導入促進策(成田航空機騒音インデックスに基づく国際線着陸料制度)の継続 ②航空機騒音のモニタリングと結果の公表	成田航空機騒音インデックスにおける低騒音型航空機導入率76.2%(2009年度)	・低騒音型航空機導入率85%	・低騒音型航空機導入率90%
各航空会社				低騒音型航空機の導入				
大気質保全	大気汚染物質の削減	空港全体	NAA	①航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを推進 ②空港周辺における大気質のモニタリングと結果の公表	低騒音型航空機導入率76.2%(2009年度)	・低騒音型航空機導入率85%	・低騒音型航空機導入率90%	
			空港関連事業者(協議会)	①航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを実施	NO _x 20.7kg/回(2009年度実績) 大気質の環境基準(環境基本法に基づく環境基準を準用)を達成	・大気汚染物質NO _x の排出量を2010年度から3%削減(20.1kg/回)	・大気汚染物質NO _x の排出量を2010年度から5%削減(19.7kg/回)	
水質保全	河川・地下水の水質維持	空港全体	NAA	①空港周辺における水質のモニタリングと結果の公表	水質の環境基準(環境基本法に基づく環境基準)を達成	・空港周辺の河川・地下水の水質維持		
			NAA	①防除氷剤の適正処理(雨水処理施設、バキュームスーパーによる回収処理、排水の一時貯留池(ラグーン)の設置)				
			各航空会社	①防除氷剤の適正使用				
取組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度 (2010年度)	中期目標 (2013年度)	長期目標 (2015年度)	

資源循環への取組み							
節水・水循環	上水の使用量削減	空港施設	NAA	①中水利用率の向上 ②事務所ビルにおける節水対策の実施 ③旅客ターミナルビル公共スペースにおける節水対策の実施	上水使用量 186万㎡ 上水使用量原単位 38.3ℓ/人	・上水使用量(空港利用者1人あたり)を2010年度比3%削減(37.2ℓ/人)	・上水使用量(空港利用者1人あたり)を2010年度比5%削減(36.4ℓ/人)
	中水利用率の向上		空港関連事業者(協議会)	①事務所ビルおよびテナント(飲食業等)における節水対策の実施 ②業務上使用する水の節水対策	中水利用率 20.5%	・中水利用率25%	・中水利用率30%
廃棄物3R	廃棄物排出量の削減	空港施設	NAA	①旅客ターミナルビル、貨物地区テナント、NAA事務所等NAAの管理する施設における一般廃棄物排出量の削減およびリサイクル推進 ②NAA事務所におけるコピー用紙のリサイクル推進 ③グリーン調達の拡大 ④産業廃棄物のリサイクル	一般廃棄物焼却量 0.46kg/人	・一般廃棄物焼却量(空港利用者1人あたり)を2010年比3%削減 0.45kg/人	・一般廃棄物焼却量(空港利用者1人あたり)を2010年比5%削減0.44kg/人
	廃棄物※6のリサイクル率向上	航空機 空港施設	空港関連事業者(協議会)	①航空機取り下ろしゴミ(機内誌、機内サービスのビン、缶、ペットボトル等)のリサイクル推進 ②事業系廃棄物(貨物取扱におけるビニールラップや木製スキッド、レストラン、機内食関連の調理くず等)のリサイクル推進 ③オフィスペーパーのリサイクル推進 ④事務棟における一般廃棄物排出量の削減及びリサイクル推進 ⑤廃棄物のサーマルリサイクル※7(機内食残渣を含む)	廃棄物※6リサイクル率36.0%(2009年度アンケート)	・廃棄物のリサイクル率を2010年度から3ポイント向上	・廃棄物のリサイクル率を2010年度から5ポイント向上
	※6 廃棄物＝一般廃棄物と事業系廃棄物(日常業務の中で定量的に発生する廃棄物で木製スキッド、廃プラスチック、発泡スチロール、生ゴミ、廃油、汚泥) ※7 サーマルリサイクル＝廃棄物を燃やした熱を回収して発電すること						
生物多様性への取組み							
自然環境保全	生物多様性を育む自然環境保全	NAA緑化施設および移転跡地	NAA	①自然環境の状況把握 ②里山の景観の復元 ③グリーンポートエコ・アグリパークなどNAA緑化施設の環境保全・啓発活動への積極的な活用 ④移転跡地の適正な管理 ⑤地域農業の再生への支援	生物多様性を育む自然環境の適切な保全と活用の実施		
	空港の拡張時等における自主的な環境影響評価の実施	成田空港近接エリア(事業に伴う環境影響予測範囲)	NAA	①調査結果および予測評価の公表 ②必要な環境保全措置の実施	空港周辺の自然環境への影響を最小限にする		
環境マネジメント							
環境マネジメント	成田空港全体での環境取組みを推進するための環境マネジメントの実施	空港全体	NAA	①協議会メンバー内の情報の発信・共有の活性化(HPの活用、環境報告書の配布など) ②協議会メンバー、空港従業員への環境教育・啓発活動の実施(エコフェスタなど) ③エコ・エアポート推進協議会活動の牽引(委員会活動などを通じた環境保全活動の推進) ④NAAグループにおける環境マネジメント強化のための、推進体制の強化、環境教育・啓発活動の実施	空港全体での環境保全活動の推進と牽引		
			空港関連事業者(協議会)	①協議会メンバー内の情報共有(HPの活用など) ②協議会活動への積極的参画(委員会活動などを通じた環境保全活動の推進) ③エコ・エアポート基本計画に基づいた環境保全活動の実施	空港全体での環境保全活動の実施		
	ステークホルダーとのコミュニケーションの実施による環境保全活動の活性化	すべてのステークホルダー(地域コミュニティ、お客様、社会一般)	NAA 空港関連事業者(協議会)	①環境情報の積極的な公開(HP、環境報告書、冊子、映像、情報コーナーなど) ②コミュニケーションの活性化(環境展への出展、エコキッズクラブ・出張環境教室などの環境学習、地域イベントへの参加) ③環境教育、環境啓発活動の実施(および実施協力)と従業員の積極的参加 ④先進的な環境情報発信の推進(ターミナルビル等における環境情報の発信)	空港における環境保全活動の理解・支持の向上		
	国内外の空港と連携による環境保全活動の推進	他空港	NAA	①主要空港環境連絡会議を活用した国内他空港との情報交換、連携した環境保全活動の推進 ②ACI活動への積極的な参加 ③海外空港との情報交換	成田空港における環境保全活動の推進 空港・航空業界の環境保全活動を牽引		